

低酸素訓練装置を導入し飛行能力を強化 *Yokota enhances flying mission with hypoxia familiarization trainer*

December 2, 2022

By Staff Sgt. Ryan Lackey
374th Airlift Wing Public Affairs

11月22日、第374運用支援中隊は横田基地内の航空機乗務員訓練施設に、常圧低酸素呼吸装置 (ROBD) と低酸素飛行訓練シミュレーターを新たに導入した。

ROBD訓練装置は、パイロットが装着する酸素マスクに高度に応じた酸素量を送り込み、その酸素レベルの状況を疑似体験できるもので、パイロット、航空機乗務員、空挺隊員が高高度を飛行する際に経験する低酸素症状に対処する訓練に使用される。

第374運用支援中隊空域生理学官ジョセフ・テオドロ少佐は、「ROBDの導入により、横田基地の飛行士や基地を經由する飛行士たちが、ここで低酸素訓練の再認定を受けられるようになる」と説明し、「飛行士は低圧室で高高度飛行の初期訓練を受けるが、低圧室は大型で維持費がかかるため、設備の数は少ない。このROBDはだいたい小さいだけでなく、シンプルで、コストもかからないため、基地にとって利点が多い」と述べた。

低圧室は、一般に高度室として知られ、密閉した低圧室から空気を吸い出して気圧を再現し、高高度での減圧を最もリアルに地上で体験できる仕組みだ。

このROBDは、各高度に応じた酸素濃度になるよう大気ガスを混合させ調整し、訓練生の呼吸マスクに供給される酸素量を減らす装置で、インストラクターが個別に対応できるようになっている。

第374運用支援中隊空域生理技術官マーク・マクヒュー技能軍曹は、「低圧室では減圧症を引き起こす危険性があるが、この装置ではその危険性はない」「この装置の主な目的は、健康関連の事故をなくすことであり、低酸素を誘導するメカニズムによって訓練生は1時間以内に再認定を受けられ、すぐに安全な状態で飛行任務に戻ることができる」と述べた。

米空軍は、連邦航空局のガイドラインに従い、すべてのパイロットと乗組員に数年ごとに低酸素訓練の再認定を受けることを義務づけている。兆候や症状が徐々に進行し、気づく前に低酸素になってしまうことがあるため、低酸素症の症状をあからじめ疑似体験することが重要であるとしている。

テオドロ少佐は、「飛行中の危険といえば、機械の故障や敵機を想像しやすいが、酸素不足はもっとより身近な脅威で、気づく間もなく危険にさらされることがある」「低酸素では痛みを感じない。人の体をつねると痛みを感じて反応するものだが、酸素が足りなくなると、眠くなったり、感覚が鈍くなったり、めまいが出現する」と述べ、「この訓練装置は、隊員をより安全かつ効率的に任務を遂行するのに役立つ」と言及した。

